





渡邊博文君

山田会頭が旭日小綬章を受章されました。おめでとうございます。

山田会頭は、商工会議所での商工業振興への熱

い思いと、そして、地元愛に満ちた行動力が評価されたと感じました。

富澤さん、小林さん、早川さん、山田さんと叙勲を4名の方々が授章されました。長年の仕事を通じての社会貢献、公共性の伴う産業振興貢献など、まさしくロータリー精神を学ぶことができました。RCのメンバーにこれだけのメンバーがいてご一緒させていただけることは、大変光栄に思うとともに、身の引き締まる思いです。

2003年10月1日に父を亡くした自分にとって多くのことをRCメンバーの方々にご指導いただきました。

RCには、人生において良き指導者がたくさんいます。自分にとってなくてはならぬ存在でした。入会は2005年1月21日、渡辺哲郎会長 時に入会しました。RCで大切にしていることがあります。出席率です。在籍16年を超えましたが、100%出席です。ライフワークとして続けていきたいです。

初めて夫人同伴！夜間例会に出席したときに大人の会としてRCの良さを思いました。夫人同伴の夜間例会のまだの方は、ぜひ参加して、RCの良さをご夫婦感じてください。

会員旅行は、東京、奈良、金沢、韓国、沖縄、伊勢志摩、どこも、豪華で楽しかったです。良い思い出となっています。

是非皆さん、参加してください。

ロータリーとは、いま語るのとは、早いと思います。長年もっと味わってから、語ってみたいです。今言えることは、今年の標語にもあります。「ロータリーは、機械の扉を開く」

まさしく、その通りだと思います。これからも、皆さん、よろしく願いいたします。



村松章典君

皆様、こんにちは。村松章典です。今回はじめて会員卓話をさせていただきます。本日は、自己

紹介及び、ロータリークラブに入会して気付いたこと、お話をさせていただきます。

わたしは、現在53歳で、藤枝市内において株式会社丸川組の代表取締役として主に土木工事業を営んでおります。

昭和42年12月11日に藤枝市稲川で生まれ、5歳の時に緑町へ移り、藤枝小学校、西益津中学校へ通いました。

中学の時、桑原会員と同じクラスで、彼は野球部で私はサッカー部に所属していました。桑原会員はクラスの人気者で頭の回転がよく勉学も優秀でした。

こうしてロータリークラブで一緒に活動できることは、大変うれしく思っております。

平成4年11月に丸川組に入社し、10年間は現場の主任技術者として、その後9年間は専務取締役として業務に携わってきました。

平成20年ごろから工事の発注の減少に伴い、受注も減少状況が続きました。

県の設計労務単価も著しく低くなり、政権がコンクリートから人へとなった時は非常に厳しい時期でありましたが、何とか乗り越えてきました。令和元年に山田会員からロータリークラブに推薦していただき、入会いたしました。

入会前は、藤枝南ロータリークラブという看板は、私には敷居が高いなと感じていましたが、入会してみると、会社の規模や立場は関係なく皆さんフレンドリーに接して頂き、安堵しています。

ロータリークラブには自己紹介や卓話の時間がありますが、先輩方のお話を伺っているうちに、今まで自分がなんと狭い世界の中で仕事をしてきたかということに気づきました。

人生で成功するには、上質を知ること、そして成功者と接することが大事だと言う方がおりますが、ロータリークラブがまさにその場だと実感しております。

また、人前で話をするのが苦手な私にとっては、

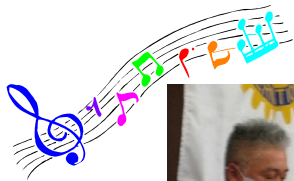
貴重な勉強の場となっており、とくに企業人の前で話をするのはとても緊張しますが、その経験が自信につながっていくのではないかと感じております。

まだまだ未熟者ではありますが、温かい目で見守って頂けたらと思います。

これからもよろしくお願いいたします。

## 例会プログラム

例会日	クラブ行事	摘要
5/14(金) 第 1411 回	地区協議会報告	理事会
5/21(金) 第 1412 回	会員卓話	小杉苑
5/28(金) 第 1413 回	30 周年記念例会	小杉苑
6/4(金) 第 1414 回	会員卓話	理事会



## 今週の一言

小山明良君



今まで行った旅行の中で思い出に残るものは？というテーマを頂きました。

海外旅行ではロータリー

の先輩である松田さん、寺島さん夫婦そして岡村さんと6人で訪れたスペインへの旅は初めてのヨーロッパということで思い出がいっぱいあります。ヨーロッパ建築や美術館にすっかり魅せられフラメンコを中心とした音楽が町中にあふれていること等思いだします。ただ最初はパン中心の食事が合わなくて奥さん方が持ってきてくれた日本食で救われたことは今でも忘れません。ドイツ、スイス、フランス三国の旅ではスイスの山並の美しさとアルバムを見て絵はがきのように自分が写っていることがいまでもなんとなく不思議に思えたり、フランスでは夜中にひとりで凱旋門やエッフェル塔を散策し、やっとの思いでホテルに帰ったりといつまでも忘れません。日本国内では東北三県の旅で大間から船に乗り見た下北半島西海岸の仏が浦が印象に残っています。自然にできたという大きな石仏が印象的でした。コロナでしばらくは何処にも行けませんが、落ち着いたら全国のいろいろなところへ行きたいと思います